


令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	有限会社 劇団あとむ
公演団体名	有限会社 劇団あとむ

内容
<p>タイトル 《アニメイムで遊ぼう》</p> <ul style="list-style-type: none">○ 《アニメイム》とは、「棒とボールと輪っか」を使い、複数の人数で、空中に、瞬時に、動物や風景を描く手法。棒・ボール・輪をつかった造形を、手遊びから、表現へ繋げます。つくりかたの発想を児童、先生方に、提案・指導します。○ 音楽も同様に、動きから自然に生まれるリズムや、曲想を楽しむ、解放された音楽にふれる機会にします。アニメイムも音楽も「ひとりでは出来ない」ものに取り組みます。○ 共演する児童だけでなく、体育の時間や総合教育の時間にも相応しい内容です。○ 一回の人数は、全員が実地に触り、動くには理想は30人～50人程。○ 全校生徒多数の場合は、学校の舞台に一部生徒を選出参加の形で可能です。 <p>児童が密接・密着する造形は変更します。</p> <p>☆90 cmの棒 6本 +45 cmの棒1本で ⇒  「馬」になります。3人～4人で持って繋ぎ、動かし歩かせたり、乗ってみたりします。</p> <p>指導者3人で作り、見せるようにします。</p>

タイムスケジュール（標準）
<p>ワークショップ開始時間の1時間前に会場入りを希望します。</p> <p>目安としては1校時45分として、2ステージにて実施。</p> <p>児童数は1ステージ最多約50人。2ステージで計100人以内を目安にしています。</p> <p>※ ⇒学校と相談し、人数を出来るだけ減らし、最多30人、2ステージで60人を提案していきます。</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
<p>主指導者講師 1名・指導者 出演俳優 2名 （予定・A班 計3名 B班 計3名）</p> <p>変更ありません。</p>

学校における事前指導
<p>アニメイムの道具は「棒」「輪」「ボール」です。その棒を、新聞紙を丸め、つくります。</p> <p>子どもたち1人につき、1本(長)出来れば(長短)2本ずつ、用意して戴きます。</p> <p>新聞紙を拵げ、まるめて直径2.5～3cmの棒です。ワークショップのあとでも、各自のものとして遊べます。その、「棒」の作成を、ご指導いただきたく、お願い致します。</p> <p>写真を添え、図解しておとどけいたします。 変更ありませんが、長棒のみでのお願いをします。</p>

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	有限会社 劇団あとむ
公演団体名	有限会社 劇団あとむ

演目	
『あとむの時間はアンデルセン～遊びバージョン～』	
原作	H. C. アンデルセン
脚本	秋山英昭・関矢幸雄
構成・演出	関矢幸雄
音楽	クニ河内
美術	有賀二郎
公演時間(70 分)	

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください	
出演者: 10 名	スタッフ: (出演者兼務) 合計 : 10 名
※変更ありません。	

タイムスケジュール (標準)	
午前1ステージ公演の場合 (例・案)	午後の1ステージ公演の場合(例・案)
搬入仕込 / 7:30	搬入仕込 / 9:00
リハーサル / 9:00	リハーサル / 11:00
開場 / 10:30	開場 / 13:20
開演 / 10:40～終演11:50	開演 / 13:30～終演14:40
撤収・退出 / 14:00	撤収・退出 / 16:00
※変更ありません。	

実施校への協力依頼人員
協力人員の依頼はありません。舞台・客席の設置は無論、席割なども、こちらで作成して提案いたします。 ※ 変更ありません。

演目解説

アンデルセンの、弱者に焦点をあわせた人生観や、価値観を、童話を通し、深く優しく子どもの心に届けます。ユニークで斬新な工夫を重ねた、表現様式です。

☆ 構成・あらすじ 9人の妖精がお話を運ぶ《音楽劇》

① 劇『パンをふんだ女の子』

靴を汚さないよう、ぬかるみにパンを置いて渡ろうとした女の子インゲル。

沼の底に沈み、地獄まで堕ちます。わがままで頑なにインゲルを救えるのは、誰なのか…？

② 子どもたち参加『アニメイムで遊ぼう』

まず、アニメイムとは…？の、ユニークなパフォーマンス、遊び、子どもたちが参加します。

※ 児童の参加は密接・密着の部分を学校と相談し、考慮します。

③ 劇『父さんのすることはみんなよし』

要らない馬を、何かいいものと取り換えようと、父さんは市場に出かけます。馬から雌牛に、雌牛から羊にと、次々に取り換え、ついには腐ったリンゴになってしまった！

さあ、家で待つ母さんはどうするか。ほんとうの値打ちとは？

☆ みどころ・オリジナル・工夫点

<アニメイム> 棒とボールと輪で、複数の人数で、空中に、瞬時に、動物や風景を描きます。

複数で取り組む、オリジナルの想像遊び。

人が意気(息)を合わせ、ひとつのものを創り、動かし、命を吹き込みます。

<アカペラコーラス> 語り、歌、擬音、すべて生の声で演じます。3声～5声のハーモニーです。

音楽は多様で楽しいこと、人間の身体能力の可能性は無限であることを、伝え、感じてもらいます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

【アニメイム】で、《もの》と、遊びます。

共演は上記演目解説②の、「遊び」の部分で、舞台に出て貰います⇒※熱狂したり、大きな声をだしたりする場面を考慮し、学校と相談し、修正します。

『遊び』の感覚を見ることで、自由で柔らかな発想をうながし感性を、呼び起こします。

劇団員が演じる部分を増やし、児童が落ち着いて劇の物語の深い発見に触れるような展開を工夫します。テーマが胸にしみます。

児童生徒とのふれあい

公演終了後にも、子どもたちと交流します。実際にものをさわってみたり、一緒に何か創ったり。

【想像する楽しさ⇒かたちにする面白さ】を知って貰う。

【ふたりで、又は、大勢で協力して創り合う楽しさと、思いやり】を感じてもらおう。

【身近にあるもので遊べる・かんがえる・工夫する】ことを、面白い！と感じさせたい。

小さなきっかけやヒントから、子どもたちの創意工夫のひろがりは驚くばかり大きいです。

それが生き生きと元気で生きる力になります。

※マスク着用と、ソーシャルディスタンスを厳重に意識して、向かいあいます。